

令和元年度 発達障がい支援者研修会

日時:2019年7月27日(土)

場所:にぎたつ会館

学習障がい、発達性読 み書き障害の学習支援 のあり方

愛媛大学

長尾秀夫

目次

I. 学習障がいとは？ 発達性読み書き障害とは？

II. 発達性読み書き障害の診断

III. 発達性読み書き障害の支援案を作る

1. 現状(実態)把握はどうしている？

2. 年齢別支援の考え方？

IV. 45分授業の設定と支援・指導法(案)

1. 得意なことの支援・指導方法は？

2. 苦手なことの支援・指導方法は？

V. まとめ

I . 学習障害 (H11.7.2報告)

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達
の遅れはないが、**聞く、話す、読む、書く、計算する**
又は**推論する**能力のうち特定のものの習得と使用
に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何
らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、
聴覚障害、**知的障害**、情緒障害などの障害や、環
境的な要因が直接の原因となるものではない。

文部科学省の調査：LDとは？

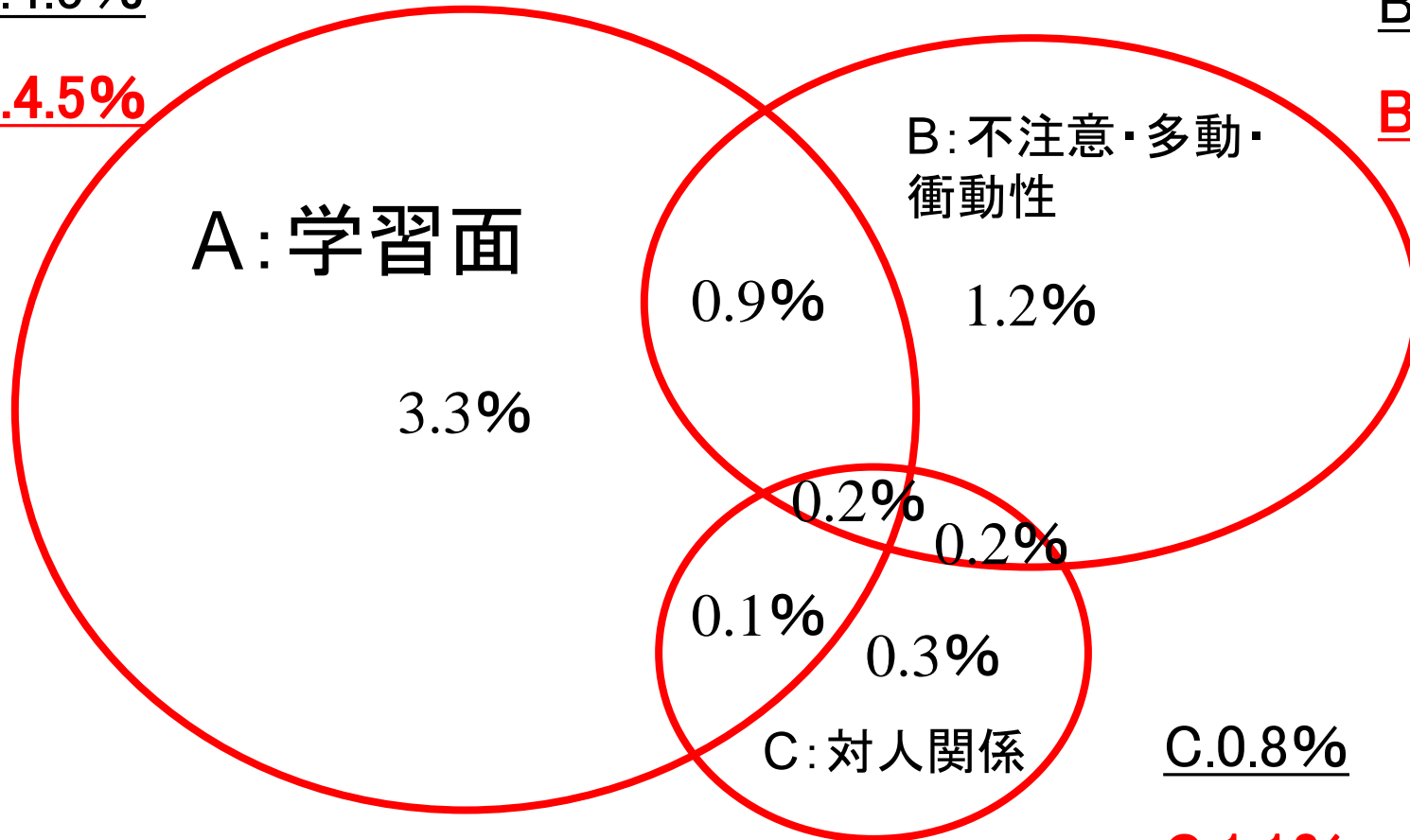
(黒字H14年、赤字:H24年)

A.4.5%

B.2.5%

A.4.5%

B.3.1%



A: 学習面

B: 不注意・多動・衝動性

0.9%

1.2%

3.3%

0.2%

0.2%

0.1%

0.3%

C: 対人関係

C.0.8%

C.1.1%

発達障害とは？（発達障害情報・支援センターHP）



発達性読み書き障害 (DLX) とは？

発達性読み書き障害は、**学習障害の一つ**。

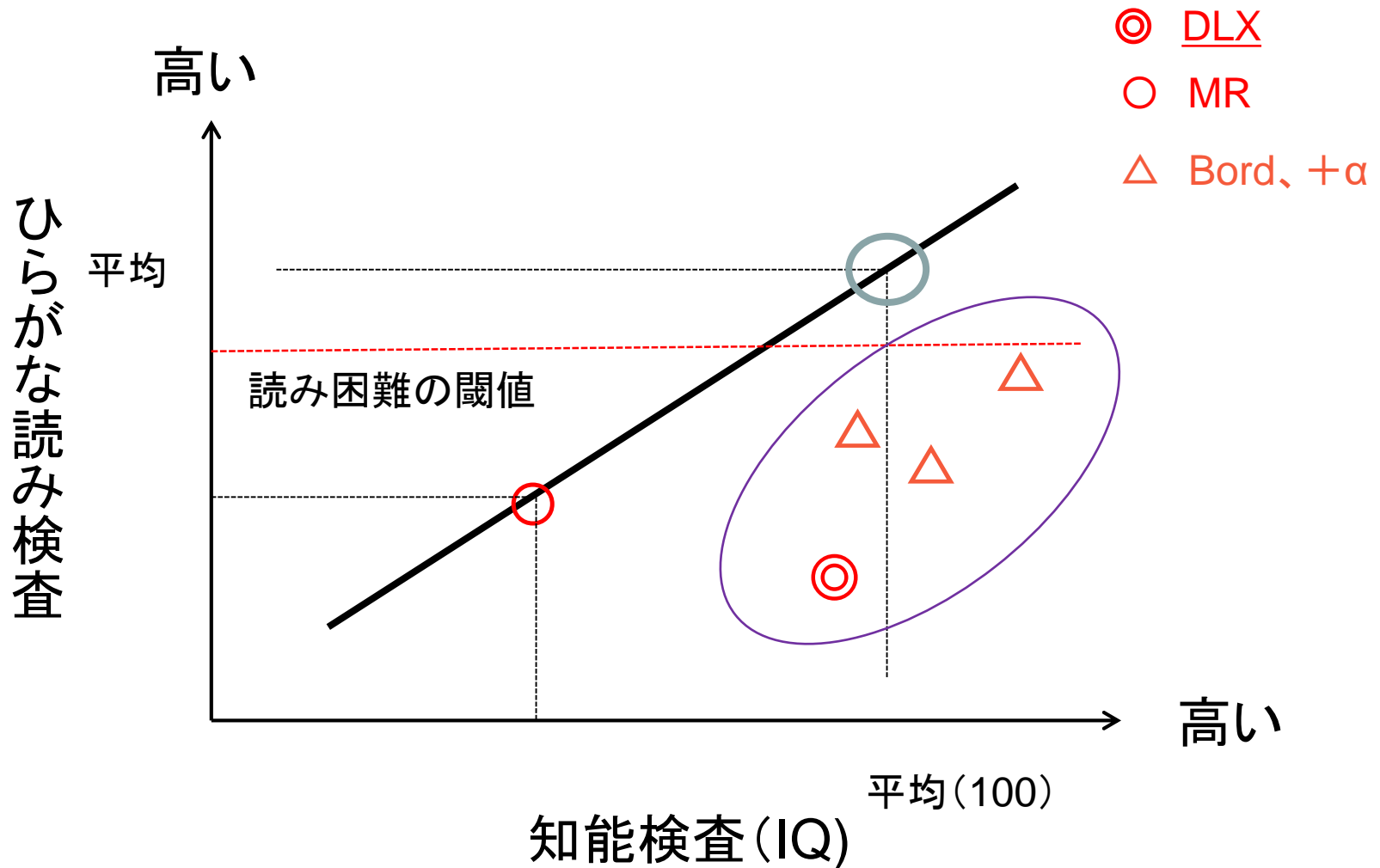
DSM-IV、ICD-10の読字障害と書字障害を含む。

定義は、**読み書き**の学習レベルが年齢や知的発達、教育の程度から期待されるレベルより、十分に低い状態をいう。

頻度は、アルファベット圏では、学童の5～7%。

日本語圏では、学童の1～2%。(細川ら、2009)。文科省の教員に対する調査(2012)では学習の困難が**4.5%**。

発達相当のひらがな読み能力？



小学1, 2年のDLX児の困難

話す:

- 似たような語と間違えて言う。
- 名前が出てこない。

読む:

- 一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。
- 飛ばし読みや勝手読みが多い。
- 拗音・促音が読めない。
- 文字と音を関連づけることができない。

書く:

- ・読むだけでなく書くことは更に大変で、連絡帳を書くことができない。

小学3-6年生のDLX児の困難

話す:

- 長い複雑な単語の発音を間違える。
- 質問されて答えるのに、時間がかかる。

読む:

- ・単語によって読み方が変わる漢字が読めない。青空・
空気
- 読み飛ばし、読み間違いが多い。
- ・見慣れない言葉や文章の区切りが分かりにくい。
- 簡単な文は読めるが、学年レベルの文章は困難。
- 読むスキルの習得が非常に遅い、疲労を感じる。
- 正確さは改善するが、流暢さの困難が続く。

書く:

- ・平仮名と片仮名の使い分け、平仮名主体の文章になる。

中学・高校・成人のDLXの困難

話す:

- 人名や地名の発音を間違える、単語の一部が抜ける。
- 質問につまったときに流暢にしゃべれない。

読む:

- すらすら読めない、読むと極端に疲労する。
- 独特の単語の発音に苦勞し、「あれください」となる。
 - ・図やグラフや写真の入っている本、文字数が少ない本を好む。
 - ・読めない単語があってもストーリーを追え、読み困難の自覚はないこともある。
- 細部を正確に読めないので、学習意欲を持たず、進学も困難となる。

書く:

- 英語のスペルと読みは困難である。ヒアリングはできることもある。
 - ・機械的な事務作業の効率が悪い。

Ⅱ．発達性読み書き障害の診察手順

0. 問診(困りごと、**家族歴**など)・診察
1. 読み書きの**臨床症状チェック表**
2. **知能検査**(WISC-Ⅲ/Ⅳ、**K/ABC-Ⅱ**、など)
3. **ひらがな読み検査**・・・読みの速さと正確さ
 - ①**短音**連続読み検査
 - ②**単語**速読検査
 - i. **有意味語**
 - ii. **無意味語**
 - ③**単文**音読検査
4. **学習習熟度テスト**(国語・算数)

臨床症状チェック表

性: 男・女 年齢 _____ 歳 学年 _____ 年

確認日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 病名: AD/HD・PDD・_____

記録者: 医師・その他 _____ 情報提供者: 保護者・教師・その他 _____

学力(国語)

- 著しく遅れている (2学年以上、あるいはまったく授業がわからない)
- 遅れている (約1学年~2学年、あるいは授業についていけない)
- やや遅れている (当該学年の平均以下)
- 遅れていない (当該学年の平均くらい)

読字

書字

① 心理的負担

- 字を読むことを嫌がる
- 長い文章を読むと疲れる
-

① 心理的負担

- 字を書くことを嫌がる
- 文章を書くことを嫌がる
-

② 読むスピード

- 文章の音読に時間がかかる
- 早く読めるが、理解していない

② 書くスピード

- 字を書くのに時間がかかる
- 早く書けるが、雑である

③ 読む様子

- 逐次読みをする
(文字を一つ一つ拾って読むこと)
あるいは、逐次読みが続いた
- 単語または文節の途中で区切ってしまふことが多い(chunkingが著手)
- 文末を正確に読めない
- 指で押さえながら読むと、少し読みやすくなる
- 見慣れた漢字は読めても、抽象的な単語の漢字を読めない

③ 書く様子

- 書き順をよく間違える、書き順を気にしない
- 漢字を使いたがらず、仮名で書くことが多い
- 句読点を書かない
- マス目や行に納められない
- 筆圧が強すぎる(弱すぎる)

④ 仮名の誤り

- 促音(「がっこう」の「っ」)、撥音(「しんぶん」の「ん」)や拗音など特殊音節の誤りが多い
- 「は」を「わ」と読めずに「は」と読む
- 「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」のように、形態的に似ている仮名文字の誤りが多い

④ 仮名の誤り

- 促音(「がっこう」の「っ」)、撥音(「しんぶん」の「ん」)や拗音など特殊音節の誤りが多い
- 「わ」と「は」、「お」と「を」のように、耳で聞くと同じ音(オン)の表記に誤りが多い
- 「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」のように、形態的に似ている仮名文字の誤りが多い

⑤ 漢字の誤り

- 読み方が複数ある漢字を誤りやすい
- 意味的な錯読がある(「教師」を「せんせい(先生)」と読む)
- 形態的に類似した漢字の読み誤りが多い(「雷」と「雷」のように)

⑤ 漢字の誤り

- 画数の多い漢字の誤りが多い
- 意味的な錯書がある(「草」を「花」と書く)
- 形態的に類似した漢字の書き誤りが多い(「雷」と「雷」のように)

(稲垣ら、2010)

ひらがな読み検査(稲垣ら、2010)

①短音連続読み検査 (50字)

は	び よ	げ	い	り ゆ	び	ぜ	じ よ	と	よ
み よ	て	ぴ ゆ	お	ぼ	に よ	え	ら	に や	ず
ぬ	ぎ や	む	び や	じ ゆ	か	き ゆ	ち ゆ	そ	ぎ ゆ
し	ぐ	し や	き よ	つ	ひ ゆ	さ	ぺ	し よ	に
ち や	の	が	ま	ぶ	じ	り や	れ	く	ぴ や

③単文音読検査 (3文)

あお まる あか しかく
青い丸にさわってから赤い四角にさわってください。

②単語速読 検査

i. 有意味語

(30語)

ちやわん

げんかん	どろぼう	としより
えんぴつ	てぶくろ	かねもち
でんとう	いりぐち	かけあし
ちやわん	だいがく	もちぬし
ぜんたい	まちがい	ふるしき
せっけん	くちばし	しゃしん
らいねん	かいしゃ	ばいきん
たいそう	おもちゃ	めじるし
がっこう	あさって	しゅるい
いたずら	むらさき	ふるさと

②単語速読 検査

ii. 無意味語

(30語)

ちやちが

してぼう	くあらち	ちゃしう
しゃさね	しゃちん	かいぶて
ちやちが	ろんもが	ねさるん
いりいと	しゅえわ	しずとう
けるつも	さっかも	いいちだ
きるため	むどふけ	くりじい
うとしま	しばちき	おいしいん
ふんばく	たんらせ	ころしら
ぐいげろ	せっかよ	びんたん
がっしあ	きかんめ	そんでい

得意な算数の習熟度(例)

小学5年生

算数修了問題の記入用紙
(正解は○、無答はNR、誤答は記入) 年 組 氏名:

		1年		2年		3年		4年		5年		6年			
		問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答		
数 基 本	整 数	1-1①	○	1-1①	○	1-5	○	1-4	○	1-5金出		1-5金出			
		1-1②	○	1-1②	○	2-1①	○	1-5①	○			1-6①			
		1-2①	○	1-2①	○	2-1②	○	1-5②	○			1-6②			
		1-2②	○	1-2②	○	2-2	○								
		1-3①	○	1-3①	○	2-3①	○								
		1-3②	○	1-3②	○	2-3②	○								
		1-3③	○	1-4①	○	2-5	○								
		1-4①	○	1-4②	○										
		1-4②	○	1-5①	○										
		1-4③	○	1-5②	○										
		1-5①	○	1-6	○										
		1-5②	○												
		1-6	○												
		2-2①	○												
		2-2②	○												
		数 の 計 算	小 数 ・ 分 数							1-6①	○	1-7①		1-3①	
										1-6②	○	1-7②		1-3②	
										1-7①	○	1-7③			
								1-7②	○	1-7④					
								2-1①	○	1-7⑤					
								2-1②	○	2-1①					
								2-2	○	2-1②					
										2-1③					
										2-2②					
										2-2③					
										1-4①		1-1①			
										2-3①	○	2-3①	○		
										2-3②	○	2-3②	○		
										2-4①	○	2-4①	○		
										2-4②	○	2-3②			
												2-4②	○		
												2-4③	○		
数 の 計 算	加 法 ・ 減 法			2-1①	○	1-7①	○	1-1①	○	2-3①	○	1-4①		1-1①	
		2-1②	○	1-7②	○	1-1②	○	2-3②	○	2-3①		1-1②			
		2-1③	○	1-7③	○	1-1③	○	2-4①	○	2-3②					
		2-1④	○	1-7④	○	1-1④	○	2-4②	○						
		2-1⑤	○												
		2-1⑥	○												
		2-1⑦	○												
		2-1⑧	○												
		2-1⑨	○												
		2-1⑩	○												
		2-1⑪	○												
		2-1⑫	○												
		2-1⑬	○												
		2-1⑭	○												
		2-1⑮	○												
		数 の 計 算	乗 法 ・ 除 法			(2-3)	○	1-2①	○	1-2①	○	1-2①		1-2①	
						2-2①	○	1-2②	○	1-2②	○	1-2②		1-2②	
						2-2②	○	1-2③	○	1-2③	○	1-2③		1-2③	
						1-3①	○	1-2④	○	1-2④		1-2④			
						1-3②	○	1-2⑤	○	1-3①					
						1-4①	○	1-2⑥	○	1-3②					
						1-4②	○			1-3③					
						1-6	○			1-3④					
						1-7	○			2-2①					
						2-4②	○			2-2②					
						2-4③	○								
数 量 問 題	分 布					(2-4①)	○	(2-6①)	○			(2-4①金)		(1-4①)	
						(2-4②)	○	(2-6②)	○			(2-4①金)		(1-4②)	
										(2-4②)		(2-1①)			
										(2-6①)		(2-1②)			
										(2-6②)					
文 章 題		2-3①	○	2-1	○	1-6	○	1-3①	○	1-6①		1-4①			
		2-3②	○	2-3	○	1-7	○	1-3②	○	1-6②		1-4②			
				2-4①	○	2-6①	○	2-5①	○	2-4①金		2-1①			
				2-4②	○	2-6②	○	2-5②	○	2-4①金		2-1②			
				2-4③	○					2-4②金		2-6①			
										2-6②		2-2①			

(注) 括弧は文章題と置換

子ども療育センターを学習障がい関連の 主訴で受診した子ども

1. 2018年の実受診者数 59人
2. 受診者の性別 男:女=47人:12人
3. 初回受診年齢

5歳5か月～17歳7か月・・・平均9歳8か月

4. 主訴(困りごと)

文字が読めない、漢字が覚えられない、学習が困難、書くことが苦手、算数ができない、他

5. 学習以外の症状、合併症

知的発達が境界域、軽度の遅れ。注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム、不器用、不登校、起立性調節障害、夜尿、他

Ⅲ-1. 子どもの現状(実態)把握・見通し?

子ども:	現状(実態)	見通し
1) 読み書き	・ ・ ・	・ ・ ・
2) 合併症		
環境:		
1) 学校		
2) 家庭		
3) その他		

参加者記入の 子どもの現状(実態)把握・見通しのまとめ

子ども:	現状(実態)	見通し
1) 読み書き	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の音読、プリントの音読で読みの到達度を見ている。 (絵)日記、学習ノート、テストプリントで書きの習得レベルを見ている。 読み書きに困難があれば、より低い学年の文章を使っている。試行錯誤しながら。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の達成レベル、学年末の達成レベルは具体的記述がなかった。
2) 合併症		
環境:		
1) 学校		
2) 家庭		
3) その他		

Ⅲ-2 発達性読み書き障害がある人、 「強みの海」モデル、得意で生きる



(S.Shaywitz,2003を基に作成)

支援・指導目標の設定

- ① 本人の興味関心があるものを取り入れる
- ② 課題や作業の難易度が低いものからする。
3. 課題は選択肢を示し、本人が選択する。
4. 課題、ルール、指示を具体的に視覚的に示す。
5. 事前に約束(予告)をする。
6. 本人に分かりやすい援助・支援を行う。
7. 刺激を最低限にして、集中できる工夫をする。
8. 安心できる人(親、教師、友達)がいる。

小学1, 2年のDLX児の支援

読む:

○一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。

～読める単語を、興味や難易度・親密度を考慮して一つずつふやす。

○飛ばし読みや勝手読みが多い。

～指で押さえて、音読する。

○拗音・促音が読めない。

～知ってる単語で読み方の確認(思い出し)をする。

○文字と音を関連づけることができない。

～興味関心、難易度、親密度の高い単語で関連づけの練習をする。(フラッシュカードなど)

小学1, 2年のDLX児の支援 2

話す:

○似たような語と間違えて言う。

～基本1:「今、～ができる」から、「次、～する」とできそうなことする。内容は興味、難易度・親密度で選ぶ。

○名前が出てこない。

～基本1。一つづつ出る名前をふやす。

書く:

・読むだけでなく書くことは更に大変で、連絡帳を書くことができない。

～基本2:できる量と質を話し合って決める。継続し、発展させる。

小学3-6年生のDLX児の支援

読む：

- ・単語によって**読み方が変わる漢字**が読めない。青空・
空気
- ～基本1:「今、～ができる」から、「次、～する」とできそ
うなことを。読めてる漢字を確認し、興味で発展を。
- 読み飛ばし、読み間違い**が多い。
- ～指で押さえて、音読する。
- ・見慣れない**言葉**や**文章の区切り**が分かりにくい。
- ～基本1。分からない言葉、文は音読して区切る。
- 簡単な文は読めるが、**学年レベル**の文章は**困難**。
- ～基本2。できる量と質を読み、後は代読する。
デイジー教科書など読み上げ教科書を活用する。
- 読むスキルの習得が**非常に遅い、疲労**を感じる。
- ～基本1、基本2で読む量を調整する。

小学3-6年生のDLX児の支援 2

読む：続き

○正確さは改善するが、流暢さの困難が続く。

～読み検査、学習習熟度テストなどを用いて、習得できる量と質を厳選する。

話す：

○長い複雑な単語の発音を間違ふ。

～基本1で、興味や難易度・親密度を基に選ぶ。

○質問されて答えるのに、時間がかかる。

～答え方のパターンを作る。

書く：

・平仮名と片仮名の使い分け、平仮名主体の文章になる。

～基本1、基本2で習得可能な内容を選ぶ。

中学・高校・成人のDLXの支援

読む：

- **すらすら読めない**、読むと極端に**疲労**する。
～基本1、基本2で読むものを調整する。
- **独特の単語**の発音に苦勞し、「**あれ**ください」となる。
～話し方のパターン化を図る。もちろん、図や絵、身振りも活用。
 - ・ **図やグラフや写真の入っている本、文字数が少ない本**を好む。～自分がわかりやすい本を選べることをほめ、体験を増やす。
 - ・ **読めない単語があってもストーリーを追え**、読み困難の自覚はないこともある。～本人が期待通りの成果を上げていない場合は、まず音読をさせて内容を質問する。次に、代読して同じ質問をし、自分の困難に気づかせる。そして、**学び方、支援があることを教え**、自分からそれを求め活用する方法を練習する。
- **細部を正確に読めない**ので、**学習意欲が持てず、進学も困難**となる。
～**学び方、支援があることを教え**、自分からそれを求め活用する方法を練習する。

中学・高校・成人のDLXの支援 2

話す:

○人名や地名の発音を間違える、単語の一部が抜ける。

～基本1で、一つずつ正確にしてゆく。

○質問につまったときに流暢にしゃべれない。

～話し方のパターン化を図る。もちろん、図や絵、身振りも活用。

書く:

○英語のスペルと読みが困難である。ヒアリングはできることもある。

～興味を通して、歌やヒアリングなどから入る。意欲が出ればフォニックスの活用も入れるといい場合がある。

・機械的な事務作業の効率が悪い。

～作業のパターン化を図り、新たな読み書きを限定する。

IV. 文部科学省の基本的考え方

小学校学習指導要領解説(総則編) H29年

◎学校教育の「**不易**」として、

一人一人の児童が自分の**よさ**や**可能性**を認識できる**自己肯定感**を育むこと。

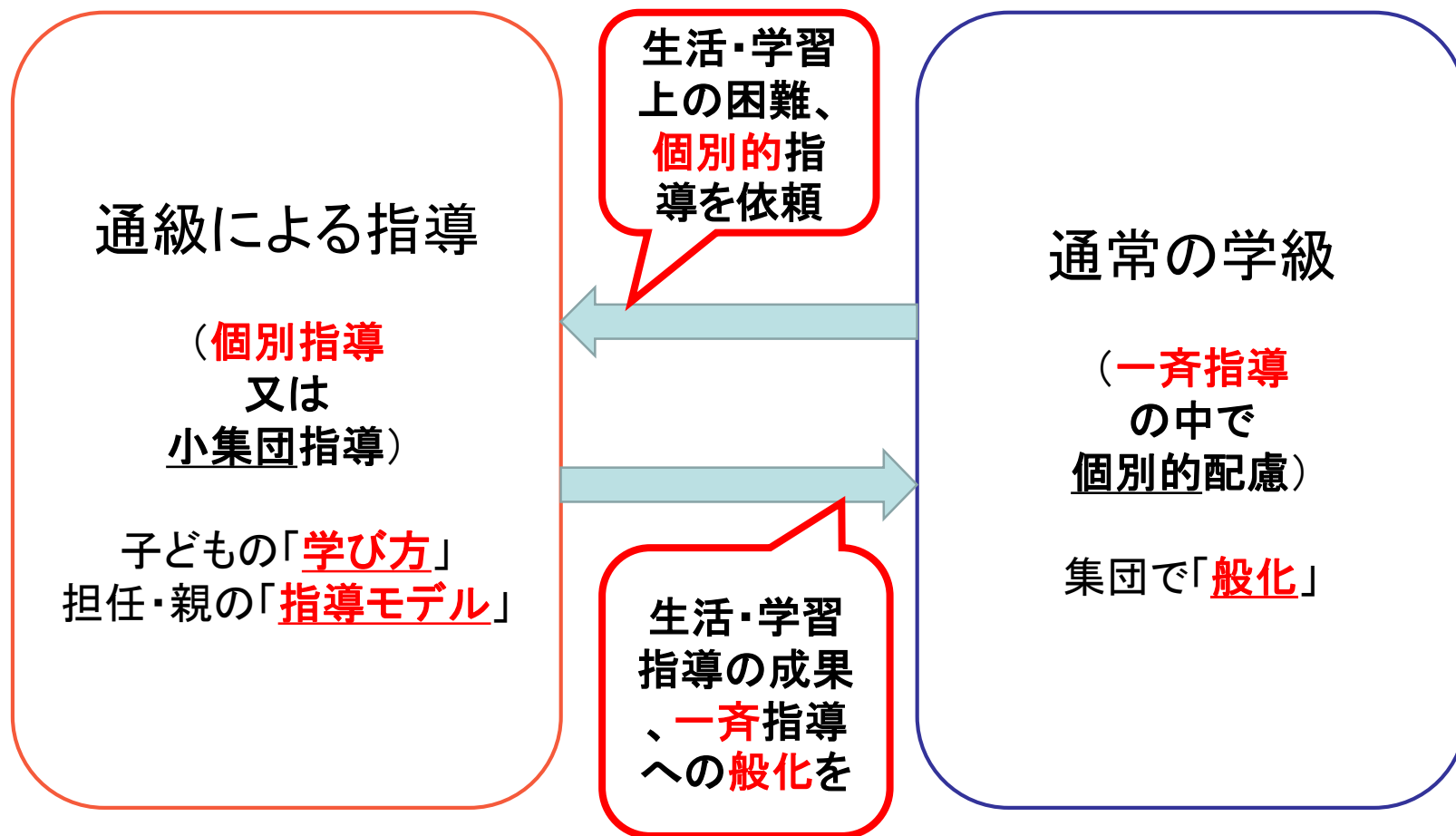
特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編) H21年

2 **指導計画**の作成手順「具体的な指導内容」

ウ:遅れている側面を補う指導内容:

◎進んでいる側面を更に伸ばし、遅れている側面を補う。

通常の学級と通級による指導の連携



特別な指導プログラム(通級)～45分の授業(案)

1. **楽しかったこと**、ほめられたことの話をする(3分)
2. 本日の学習計画を子どもと相談して決める。(2分)
3. **得意な教科**の発展(12分)
 - ①前回の授業の復習(1分)、②本日の学習・発展
 - ③**テスト**で確認(1～3問)
4. **国語等**の読み書きをする(18分)
 - ①前回の授業の復習(1分)、②本日の学習・発展
 - ③**テスト**で確認(1～3問)
5. 本日学んだこと、**できたこと**をテストを見ながらほめる(2分)
6. 連絡帳(担任、保護者に連絡) (2分)

休憩:3分

休憩:3分

1) 得意なことと苦手なことを学ぶ

2) ①～③の構成・枠で毎回確実な習得を目指す

IV-1 得意な算数・数学の支援・指導案

- ・ヒントカード作り
- ・授業の構成・展開

(例)

1. 2けたのたし算(ひっ算)
2. 面積を求める
3. 文章題
4. 正負の数に四則の混じった計算

1. 2けたのたし算(ひっ算)

「2けたのたし算(ひっ算)

ポイント:

1) けい算は1の位から、10の位のじゅんじゆにする。

2) くり上がりのかずをかく。

(れい) $45 + 98 = 143$

(ひっ算)

$$\begin{array}{r} \text{(10)} \text{(1)} \\ 45 \\ + 98 \\ \hline 143 \end{array}$$

(やり方)

(1)の位 $5 + 8 = 13$

(10)の位 $1 + 4 + 9 = 14$

$$\begin{array}{r} 5 \\ \hline 14 \end{array}$$

(こたえ) 143

(かくにん)

1) $28 + 13$

2) $86 + 67$

授業(学習)の基本枠

上 段	「2けたのひき算(ひっ算)」 <u>学びのポイント</u>
中 段	<u>例題(ヒントカード)</u> ・ $53-26=$
下 段	<u>確認問題(1~3問)</u> ・

文章題ができなかった場合、下記の手順(愛媛大学方式)を子どもがする。
出来なければ支援者が手本を示す。手本の**ヒントカード**を準備しておく。

1. 問題を声に出して読む。(音読)

(大切な言葉に印をつける)

2. 文章どおりに具体物等をやり取りする。

(物を移動させて数える、左から右、上から下、位で行を変える等の原則を守る)

3. 絵や図に描く。

(絵や図に数や単位等を書き込む)

4. 式を立てる。

5. 計算をする。

(正しい位置に筆算をし、位をそろえて書く)

(繰り上がり・下がりの数を書く)

6. 答を書く。

「算数の文章題理解を育てる支援」

2. 四角形の面積(3. 文章題)

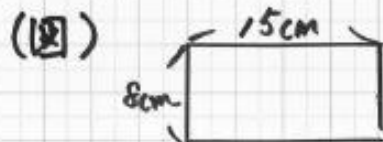
「四角形の面積」

ポイント：四角形の面積 = たて × よこ

(例) たて8cm、よこ15cmの四角形の面積を求めなさい。

図、式、筆算を書きなさい。

③



④

(式) たて × よこ
 8×15

⑤

(筆算)

$$\begin{array}{r} 8 \\ \times 15 \\ \hline 40 \\ 8 \\ \hline 120 \end{array}$$

⑥

(答) 120 cm^2

(確認) 上と同じく、図、式、筆算もする。

1) 1辺の長さが、18cmの正方形の面積を求めなさい。

2) たて17cm、よこ8cmの長方形の面積を求めなさい。

①

音読

授業(学習)の基本枠

上 段	「三角形の面積」 <u>学びのポイント</u>
中 段	<u>例題(ヒントカード)</u>
下 段	<u>確認問題(1~3問)</u> ▪

4. 正負の数に四則の混じった計算

「四則の混じった計算(筆算)」

ポイント: 1)乗除を先に計算する。

2)かっこのある式は、かっこの中を先にする。

(例)

$$\begin{aligned} 1. \quad & 7 \times (-3) - 4 \div (-2) \\ & = -21 - (-2) \\ & = -21 + 2 \\ & = -19 \quad \text{(答) } -19 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 2. \quad & 6 - \{ (5-7) \times 2 + (5-7) \} \\ & = 6 - \{ (-2) \times 2 + (-2) \} \\ & = 6 - \{ -4 - 2 \} \\ & = 6 - (-6) \\ & = 6 + 6 \\ & = 12 \quad \text{(答) } 12 \end{aligned}$$

確認

$$1) 8 \div 4 - 3 \times (-6)$$

$$2) \{ (-12) \times 2 - 6 \times (-2) \div (-3) \} + 5$$

授業(学習)の基本枠

上段	「正負の数に四則の混じった分数の計算」 <u>学びのポイント</u>
中段	<u>例題(ヒントカード)</u> 例： $5-3 \times \frac{1}{2} + (-4) \div \frac{2}{5}$
下段	<u>確認問題</u> (1～3問) ・

IV-2 苦手な国語の支援案

- ・ヒントカード作り
- ・授業の構成・展開

(例)

1. ひらがな読み
2. 漢字の書き
3. 作文
4. 文章読解

1. ひらがなの読み

- ・ひらがなの読みの**到達点**を知る。
～**五十音表**で読めるものに**丸**をつける。
- ・子どもが**知っていることば**、**よく使うことば**で未だ読めないひらがな1文字について学習する。
1時間では2~3文字までにおさえる。
- ・毎回、**前回の復習**をして確認する。覚えていたら透明な宝箱に入れる。
- ・**数回**貯まれば、すでに読める字と一緒にまぜて、読みを確認し、読めると**五十音表**に**丸**をつける。

授業(学習)の基本枠

上段	・「きゃ」を読む。 <u>学びのポイント</u> (ことばの親密度を生かす)
中段	<u>授業の展開</u> ①「きゃ」がつく言葉を集める。 ②平仮名に書いて、フラッシュカードを作り、読ませる。 ③「きゃ」のつく単語を使った文章を作る。 ④書いた文章を読ませる。
下段	<u>確認問題</u> (1~3問) ・「きゃ」「きゃべつ」「おきゃくさん」のフラッシュカードを読ませ、ほめる。

② 音読訓練用ひらがなフラッシュカード(例)

(表)

きや

(裏)

きやべつ

(絵、写真)

③

「きゃ」のつく単語の文章

おかあさんが きゃべつを かいました。

④

「きゃ」のつく文章を読む

りや	みや	ひや	にや	ちや	しや	きや
りゆ	みゆ	ひゆ	にゆ	ちゆ	しゆ	きゆ
りよ	みよ	ひよ	によ	ちよ	しよ	きよ
	ぴや	びや			じや	ぎや
	ぴゆ	びゆ			じゆ	ぎゆ
	ぴよ	びよ			じよ	ぎよ

ひらかなをこえにだしてよみましょう。

授業(学習)の基本枠

上段	・「しよ」を読む。 <u>学びのポイント</u>
中段	<u>授業の展開</u> ▪
下段	<u>確認問題</u> (1~3問) ▪

2. 漢字を覚える

ひらがな同様に、読める・書ける漢字の**到達点**を知る。～学年別漢字配当表も参考に。

漢字の読み：

学習は、子どもが**親しみ**のある、会話や作文で**使う**言葉の漢字から始める。

漢字の書き：

子どもの記憶力により、

同じ漢字**1字**を、口で**唱えながら**、**5~8回**繰り返し書く。**熟語**と共に覚えると使える。(例)

・・・基本的な学習法。その子に合わせて！

授業（学習）の基本枠

上 段	「湖」、湖面の湖を書く。 <u>学びのポイント</u> （親密度・子どものやり方）
中 段	<u>授業の展開</u> ①1枚目：覚える漢字の読みをひらかなで書く。 ②2枚目：唱える言葉を書く。（部首も入れ） ③3枚目：漢字1字を5～8回唱えながら書く。 横に、熟語を唱えて3回書く。 ～「湖」のつく熟語を出し合い、書く。 ④4枚目：まとめて唱えて1回書く、 間違えばさらに3回唱えて書く。 ⑤5枚目：次回の授業で初めに1回復習する。
下 段	<u>確認</u> 問題（1～3問） ・例：「湖」、湖面等数問を唱えて1回書く、 間違えば、さらに3回唱えて書く。

漢字を覚える(例)

②

〈覚え方〉

世	湖
一 <small>(イ)</small>	ニ <small>(ニ)</small>
と	と
山 <small>(コト)</small>	古 <small>(コト)</small>
と	と
L <small>(エル)</small>	月 <small>(ツキ)</small>

①

〈熟語・読み〉

せ	せ	こ	こ
か		め	
い		ん	

④

②〈確認〉

世	せ	湖	湖
界	の	面	
	世		
	世		
	世		

③

〈初め〉① 28個

世	世	湖	湖
界	世	面	湖
世	世	湖	湖
界	世	面	湖
世	世	湖	湖
界	世	面	湖
	世		湖
	世		湖

授業(学習)の基本枠

上段	「達」、達者の達を書く。 <u>学びのポイント</u>
中段	<u>授業の展開</u> ①1枚目:覚える漢字の読みをひらかなで書く。 ②2枚目:唱える言葉を書く。(部首も入れ) ③3枚目:漢字1字を5~8回唱えながら書く。 横に、熟語を唱えて3回書く。 ~「達」のつく熟語を出し合い、書く。 ④4枚目:まとめで唱えて1回書く、 間違えばさらに3回唱えて書く。 ⑤5枚目:次回の授業で初めに1回復習する。
下段	<u>確認問題</u> (1~3問) ・例:今日学んだ漢字「達」「読」「奮」等を唱えて1回書く。

3. 作文をする(書く)

- ・はじめに、楽しかったこと、今日したことなどを自由に話させる。
- ・「では、先生が質問するので答えてね」と言って、いつ、どこで、だれが、なにを、どうした、なぜ、きもち、を順番に聞いて、それを話させる。
- ・「いまのお話を書くので、もう一度順番に話してください」と言う。最初は先生が、慣れると子どもが枠・短冊に書く。
- ・書いたものを子どもが続けて読む。
- ・「よく読めました。原稿用紙に書いてください」
- ・書けた作文を読んでみましょう。

授業（学習）の基本枠

上段	作文を書く。 学びの ポイント （基本形の枠を使って）
中段	<u>授業の展開</u> ①書きたいことを話す。 ②いつ、どこで、と順番に聞く。 ③話したことを書く（子どもが書く？） ④書いた文字を続けて読む。 ⑤原稿用紙に言いながら清書する。 ⑥清書したものを読む。
下段	<u>確認問題</u> （1問） ・書きたい別のことを話す。 ・基本枠を使って書き、原稿用紙に清書し、読む。

5W1Hで作文を書こう（例）

しつもんじに答えよう。

いつ .. 「きのう」

どこで .. 「がっこうで」

だれが .. 「ぼくは」

なにを .. 「えんそくのえを」

どうした。 .. 「クレヨンでかきました。」

なぜ .. 「せんせいがほめてくれて」

きもち。 .. 「うれしかったです。」

つなぎ合わせて、文を作ろう。

きのう がっこうで
ぼくは えんそくのえを
クレヨンで かきました。
せんせいが ほめてくれて
うれしかったです。

(マス目付き
原稿用紙から)

授業（学習）の基本枠

上段	作文を書く。 学びの ポイント （基本形の枠を使って）
中段	<u>授業の展開</u> ①書きたいことを話す。 ②いつ、どこで、と順番に聞く。 ③話したことを書く（子どもが書く？） ④書いた文字を続けて読む。 ⑤原稿用紙に言いながら清書する。 ⑥清書したものを読む。
下段	確認 問題（1問） ・書きたい別のことを話す。 ・基本枠を使って書き、原稿用紙に清書し、読む。

4. 文章の読解

- ・子どもに合った**短い、わかりやすい**文章から始める。(ひらがな、分かち書きなども考慮)
- ・子どもが**好きな本**、絵本などを活用する。
- ・**音読**から入り、子どものペースで読ませ、はじめは修正しない。わからない文字があれば読み方を教えることも事前に伝えておく。音読後によく読めた部分を具体的に**褒める**。
- ・子どもの**指導に合った文章**が選べたら、その全体を**音読**させ、内容を**話し合った**あと、**一文**ずつ内容を確認する。

理解がむづかしい場合、下記を子どもがする。

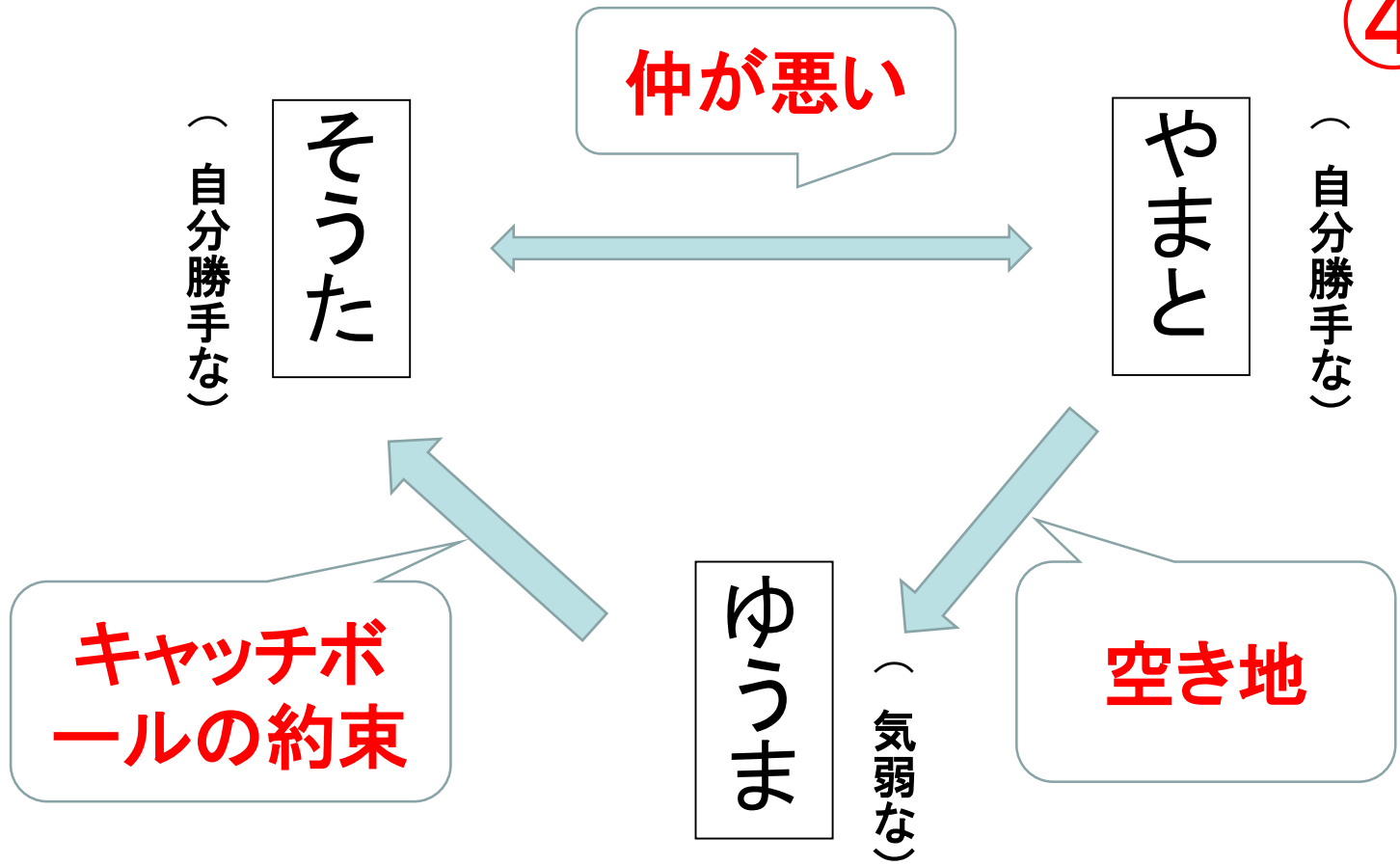
出来なければ支援者がして手本を示す。手本の**ヒントカード**を準備しておく。

1. 問題を正しく**音読**する。
2. 大切な言葉、分かりにくい言葉、表現に**印**をつける。(問題文に**書き込む**、汚す)
自分で調べる。わからなければ、自分から質問する。
3. **場面**を理解する。
主語—**述語**を探す。全体を「いつ、どこで、だれが、どうした」の**5W1H構成**でワークシートに書く。難しければ、段落毎に。それで難しい場合は文毎に。ワークシートに書けない時は支援者が一つずつ質問し、回答後に書く。
4. 文章どおりに**ロールプレイ**(**やりとり**)をする。
5. 登場人物の**気持ち**を話し合って、考える。
心情語に傍線を引く。
6. **大切な言葉**を書き出して**図示**する。
繰り返し出てくる言葉に注意する。
7. **答**を書く。

「**国語の読解力**を育てる支援」

授業(学習)の基本枠

上 段	文章読解： <u>学びのポイント</u> 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」の基本形を探す。
中 段	授業の展開（例文は問題集を参考に作成） ①文章を音読する。 ②大切な言葉に線を引く、丸をつける。 ③一文ごとに基本形を探し、不足(省略)部分を補う。たとえば、主語を入れる。 (・必要なら、基本形の順番に並び替える。) ④自分の言葉で説明する。身振り、図を描く。
下 段	<u>確認</u> 問題(1問) ・文章題の例題を基本形に当てはめる。線を引く、丸をつける、図を描く。



(例) 話の見える化(図)

授業(学習)の基本枠

上 段	文章読解： <u>学びのポイント</u> 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」の基本形を探す。
中 段	授業の展開（例文は問題集を参考に作成） ①文章を音読する。 ②大切な言葉に線を引く、丸をつける。 ③一文ごとに基本形を探し、不足(省略)部分を補う。台詞には発言者を書き足す。 (・必要なら、基本形の順番に並び替える。) ④自分の言葉で説明する。関係図を描く。
下 段	<u>確認問題</u> (1問) ・文章題の例題を基本形に当てはめる。線を引く、丸をつける、図を描く。

演習：みんなで作る支援案

1. 初めに各自で①算数・数学、②国語の支援案を基本枠に準じて作る。
2. 年齢別グループ(小学1・2年、小学3～6年、中学・高校)で話し合っって支援案を完成する。
3. 完成した支援案を算数・数学と国語、それぞれ1枚のポスターに書き上げる。
4. 各グループのポスターを順番に発表し、質疑応答とコメントをする。

(参考)以下、同じテーマのポスターから、一部を抜粋し、算数・数学と国語それぞれを例示する。

算数の支援案(小学1・2年)

「2けたのひき算(ひっ算)」

学びのポイント

- 1) けい算は一の位から、十の位のじゆんにする。
- 2) くり下がりの数を書く。

れい)

$$53 - 26 = (27)$$

(ひっ算)

$$\begin{array}{r} \times 10 \\ 53 \\ - 26 \\ \hline 27 \end{array}$$

(やり方)

- ① $3 - 6$ はできない
- ② 十の位から1かりる
- ③ $5 \rightarrow 4$ 、1は一の位 10
- ④ $10 + 3 - 6 = 7$
- ⑤ $4 - 2 = 2$

(こたえ) 27

(かくにん)

1) $45 - 17$

2) $62 - 35$

国語の支援案(小学1・2年)

「しよ」を読む

学びのポイント: こぼの親密度を生かす。

授業の展開

①「しよ」がつく言葉を集める

しょうがっこう、しょうま、しょうゆ

② ひらがなで書いて読ませる。

フラッシュカード (図1)

「しよ」(表) 「しょうがっこう」(裏)

「しよ」(表) 「しょうま」

③ 「しよ」のつく単語を使った文書を作る。(図2)

「しょうがっこうに行きます。」

「しょうまくんは ともだちです。」

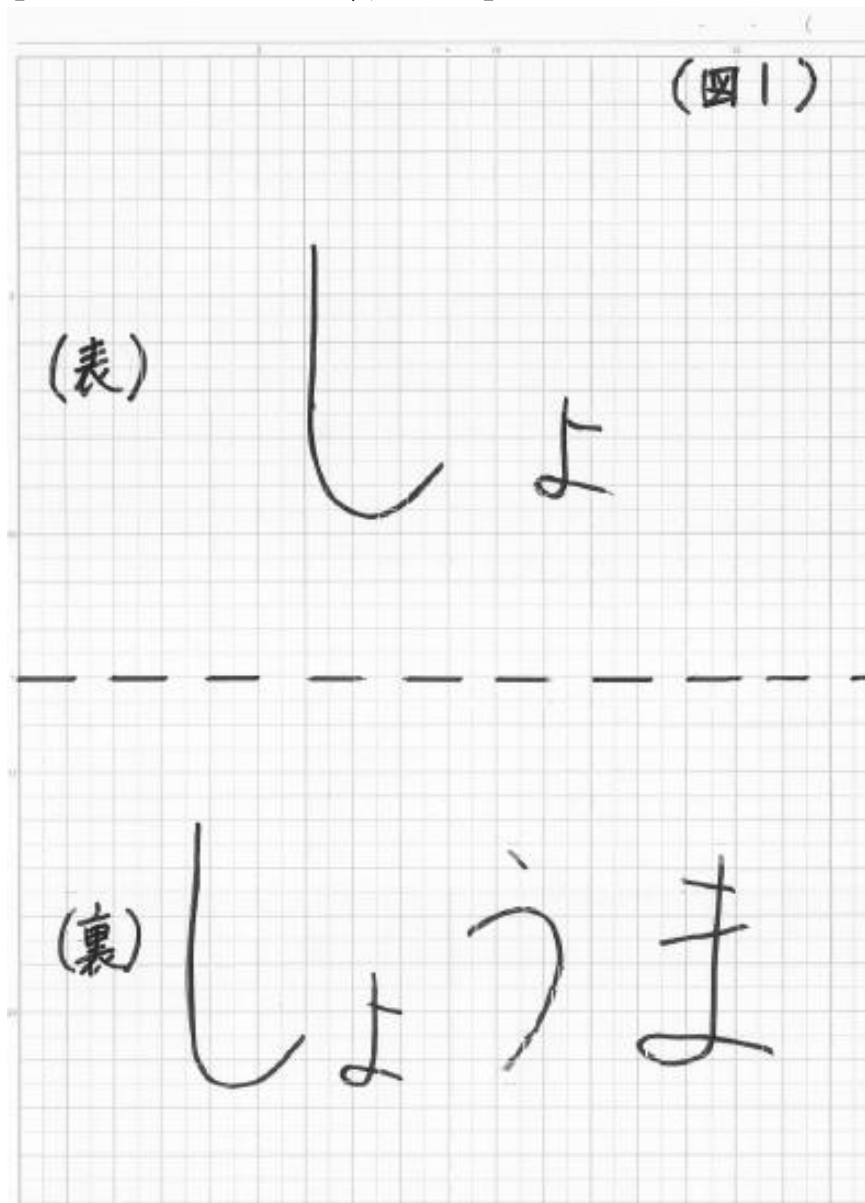
④ ③の文書を音読する。

確認

「しよ」「しょうがっこう」「しょうま」

「しょうゆ」を音読させる。

国語の支援案(小学1・2年)



国語の支援案(小学1・2年)

(図2)

しょうまくんはともだちです。

算数の支援案(小学3~6年)

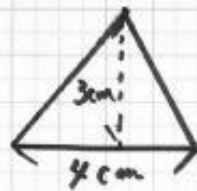
「三角形の面積」

学びのポイント:

$$\text{三角形の面積} = \text{底辺} \times \text{高さ} \div 2$$

例題: 底辺 4cm、高さ 3cm の三角形の面積を求めなさい。図・式・筆算も書きなさい。

(図)



文章題の解き方

- 1) 音読、線を引く
- 2) 図をかく
- 3) 式を立てる
- 4) 計算(筆算)する
- 5) 答を書く

(式) 底辺 \times 高さ $\div 2$
 $4 \times 3 \div 2$

(計算) $\frac{4 \times 3 \div 2 = 6}{12}$

$$\begin{array}{r} 6 \\ 2 \overline{) 12} \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

(答え) 6cm^2

(確認) 底辺が 10cm 、高さが 8cm の三角形の面積を求めなさい。図・式・筆算を書きなさい。

国語の支援案(小学3~6年)

漢字「達」、友達の達を書く。

学びのポイント:

親密度、子どものやり方を生かす。

授業の展開

- ① 漢字の読みをひらがなで書く。(図1)
- ② 漢字を書くときの唱える言葉を書く(図2)
- ③ ①を見て、漢字1字を5~8回 (図3)
唱えながら書く。
- ④ 本日のまとめで、①を見て、唱えて、
1回書く。間違えは、さらに3回書く。
(図4)

確認:

- ①を見て、「達、友達」「術、手術」
「奮、奮発」を書く。

国語の支援案(小学3~6年)

(図1)

ふ	ふ	し	じ	と	た
ん	ん	ゆ	ゆ	も	ち
ぱ		じ	つ	だ	
っ		ゆ		ち	
		っ			

国語の支援案(小学3~6年)

(四2)

大	行 <small>(ぎょう)</small>	土 <small>(つち)</small>
と	の	と
進	左「行」と	羊 <small>(ひつじ)</small>
の	木に点「木」と	と
右	行の右	
「進」と	行	ま <small>(ま)</small>
と		
田		

国語の支援案(小学3~6年)

(図3)

奮	奮	手	術	友	達
発	奮	術	術	達	達
奮	奮	手	術	友	達
発	奮	術	術	達	達
奮	奮	手	術	友	達
発	奮	術	術	達	達
	奮		術		達
	奮		術		達

国語の支援案(小学3~6年)

「作文を書く」

学びのポイント: 基本枠を使う

授業の展開: (ポスターに入っていたこと)

- ①書きたいこと(楽しかったこと)を話す。
- ②いつ、どこでと順番に聞く。作文の
木カードなども使って整理する。
- ③話した内容を基本枠に書く。(図1)
- ④基本枠に書いた順に音読させる。
- ⑤見たこと、聞いたこと等五感に関する
表現があるとほめる。
- ⑥基本枠を読みながら原稿用紙に
清書する。(図2)
- ⑦清書したものを音読する。

確認:

- 1) 本日、もう一つの楽しかったことを基本枠
を使って作文する。

国語の支援案(小学3~6年)

5W1Hで作文を書こう

まず、いつもんに答えよう。

いつ

「日曜日」

「

どこ

「プールで

」

だれが

「ぼくは

」

なにを

「スライダーを

」

どうした。」「しました

」。

なぜ

「水がキラキラして

」

きもち。

「きれいでした

」。

国語の支援案(小学3～6年)

(図2)

日曜日にプールで

ぼくはスライダーをしました。

水がキラキラして
きれいでした。

数学の支援案(中学・高校)

「正負の数に四則の混じった分数の計算」

学びのポイント:

- 1) 乗除を先に計算する
- 2) 分数のわり算は、わる数の逆数かける
- 3) 通分する.

例題: $5 - 3 \times \frac{1}{2} + (-4) \div \frac{2}{5}$

$$\begin{aligned} &= 5 - \frac{3}{2} + (-4) \times \frac{5}{2} \\ &= 5 - \frac{3}{2} - \frac{20}{2} \\ &= 5 - \left(\frac{3}{2} + \frac{20}{2} \right) \\ &= 5 - \frac{23}{2} \\ &= \frac{10}{2} - \frac{23}{2} \\ &= -\frac{13}{2} \quad (= -6\frac{1}{2}) \end{aligned}$$

確認:

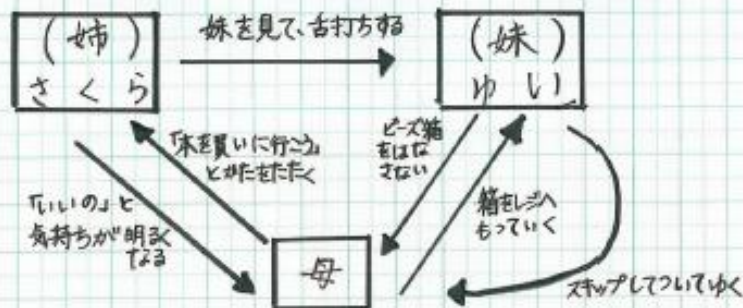
- 1) $10 - 4 \times \frac{2}{3} - 6 \div (-\frac{2}{3})$
- 2) $6 - 2 \times \frac{1}{3} - 2 \div \frac{4}{5}$

国語の支援案(中学・高校)

「文書読解」
学びのポイント：
「いつ、どこで、だれが、なにを、
どうした」の基本形を採す。

授業の展開：(例文は問題集を参考に作成)

- ① 文書を音読する。
- ② 大切な言葉に線を引く、丸をつける。
- ③ 一文ごとに基本形を採し、不足(省略)部分を補う。とくに、主語をせりふにつける。
- ④ 内容を図で表わす。



確認：
図式化しやすい短文の1問で上記の
復習をする。

V. DLXがある人の支援の原則 1

1. **今できそうなこと**を支援する。(基本方針)

基本1

「～ができない」→「**今、～ができる**」→「**次ぎ、～をする**」

目標は本人の**興味、難易度、必要性**等から

基本2

達成可能なもの(質と量)を選ぶ。

成果に基づく見立て

支援の成果は**毎回、毎日、学期、年単位**で**評価して、目標を見直し、調整する**。(P₁DCAからP₂へ)

DLXがある人の支援の原則 2

2. 学習、学びの内容(基本パターン・基本枠)を視覚的に例示し、説明する。パターン化した例を本人が身近にもつ。
3. 学習は毎時間確認テストをし、その成果から、本人が「学び方」を自覚し、担任・家族等も「教え方」を知る。
4. 学習の評価は本人の願いに沿って行い、自己有能感をもつよう本人の努力をほめる。

人に教えること？

「やって**見せ**、

言って聞かせて、

やらせてみ、

褒めること。」

例題見本
1頁に！

例題の
確認テスト

また、自分らしくできる？ ~~~ 個性的とは？

守



破



離

基本のパターン化

DLXの子どもたちの心を守る

DLXの子どもへの**最良の支援**：

- ・子どもの読みが気になれば**正確な診断**を求める
- ・読み障害に**効果がある指導法**を探し、受けさせる
- ・学校で**ポジティブな経験**が得られるように生活や学習内容・方法の調整をする → **得意な分野**で自信！
- ・世間知らずにならないように**社会を体験**させる
- ・家庭では子どもと共に**本を読み、読み聞かせ**をする

その子に

「ひとりの**人間として価値ある存在**である」

と常に言い続ける！！！！

まとめ

I. 学習障がいとは？ 発達性読み書き障害とは？

→ 文字の読みの困難が中心

II. 発達性読み書き障害の診断

→ 学校で支援した後で、医学的診断をする

III. 発達性読み書き障害の支援案を作る

1. 現状(実態)把握はどうしている？

2. 年齢別支援の考え方？

→ 年齢と共に困難が変わるので、それに合わせた支援案が必要

IV. 45分授業の設定と支援・指導法(案)

1. 得意なことの支援・指導方法は？

2. 苦手なことの支援・指導方法は？

→ 得意なことを生かして自信をつけ、苦手なことは代替したり、支援を求める

V. まとめ

文献

- 1) Overcoming Dyslexia Sally Shaywitz, M.D. 著
、2003 「読み書き障害のすべて」—頭はいいのに、
本が読めない—
訳：藤田あきよ、監修：加藤醇子、PHP研究所、2006
- 2) 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドラ
イン—わかりやすい診断手順と支援の実際—
稲垣真澄編著、診断と治療社、2010
- 3) “遊び活用型”読み書き支援プログラム
小池敏英・雲井未勸編著、図書文化社、2013

謝辞

ご清聴をありがとうございました。

日頃からご支援・指導を担当されている皆様の今後のご活躍を期待しています。

児童生徒の笑顔、「できた、わかった」の声を目標に、ご支援いただけますよう、お願いいたします。

もし、私達が何らかのお役に立てそうな場合は子ども療育センター小児科・あいゆうにご連絡ください。一緒に汗をかきましょう。